

第47回がん検診のあり方に関する検討会	資料1
令和8年7月16日(木)	

高濃度乳房含む乳房構成の通知について

厚生労働省 健康・生活衛生局

がん・疾病対策課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

これまでの経緯等

- 平成29年、3団体が「現時点で、全国の市町村で一律に乳房の構成に関する通知を行うことは時期尚早」と提言。
- 平成29年の検討会で、乳房構成に関する個別通知についての、検討課題とされた5点について検討会及び研究班において検討が進められ、いずれの課題についても、一定程度対応が進んでいる。

直近の状況

- 令和8年3月、3団体から「高濃度乳房を含めた乳房構成については、国及び学会等が連携して、各自治体における情報提供体制を整えた上で、受診者に通知されることが望ましい」と見解が示された。
- 令和8年3月に、改めて自治体の乳房構成に関する個別通知の状況を調査したところ、通知を実施する自治体は2割と限定的であることが明らかとなった。

対応方針

- 乳がん検診受診者の乳房構成を受診者に通知することについて、自治体の取組が進むよう3団体と連携し、本年夏頃を目途に、自治体が乳房構成を通知する際に活用できる説明資材や、Q&A等を作成するとともに、自治体に求められる体制等を整理し、自治体に周知する。

第46回がん検診のあり方に関する検討会における主な意見(乳房構成関係)

<主な意見>

- ・乳房構成の通知をしている自治体において、その後取るべき対応を説明していない場合は、受診者を不安に陥らせるという不利益を生じている可能性がある
- ・乳房構成の方のがんリスクは、冷静な形で周知していくことが重要
- ・超音波検査についてどういったことを言及するのか、一般化された文章が求められる

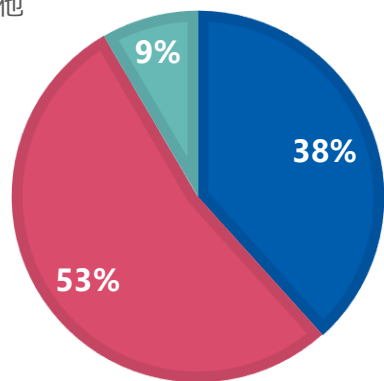
乳がん検診に関する実態調査(乳房構成に関する対応について) 追加調査

乳房構成の個別通知を行っている自治体のうち、対象者へ乳房構成について解説した説明資料を提供している割合は約4割だった。

- 自治体の実施する乳がん検診について、乳房構成に関する対象者への通知や受診者がとるべき対応として推奨していること等を調査した。
 - 調査実施手法: 一斉通知・調査システムを通じて、「(マンモグラフィによって判定された乳房の構成を)対象者に通知している」と回答した自治体を対象に調査を実施。
 - 調査実施期間: 令和8年4月22日～5月8日
 - 有効回答率 77.2%(214/277市町村)、回収率 78.3%(217/277市町村)

①マンモグラフィによって判定される乳房の構成について、対象者へ高濃度乳房について解説した説明資料を提供しているか。

- 提供している
- 提供していない(乳房の構成のみを通知)
- その他

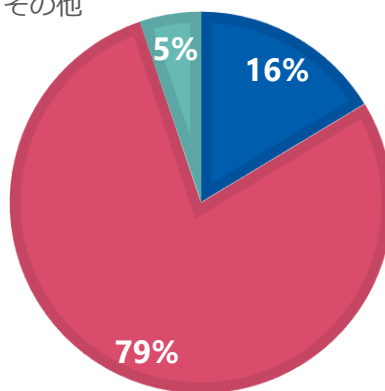


その他

・検診機関によって異なる ・集団検診のみ提供 ・高濃度乳房検査者のみ提供 ・待合室にチラシなど提示 等

②乳がん検診の結果に併せて、マンモグラフィによって判定された乳房の構成を対象者へ通知することについて、検診を受診する前又は受診時に、対象者へ伝えているか。

- 伝えている
- 伝えていない
- その他

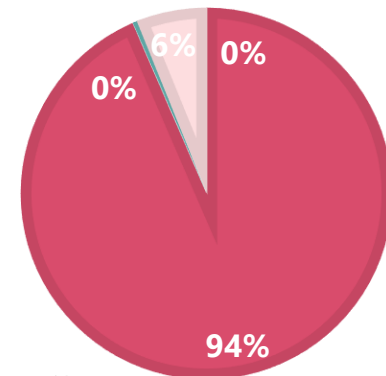


その他

・検診機関によって異なる ・集団検診時のみ伝えている ・高濃度乳房検査者のみ提供 ・問診票と結果通知が一体化となっており医師の記入欄で分かるようになっている 等

③マンモグラフィによって判定された乳房の構成を対象者へ通知することについて、通知する前に、通知を希望するかどうかについての受診者本人の意思を確認しているか。

- 事前に本人の希望を確認し、希望者のみに通知している
- 事前に本人の希望を確認しておらず、対象者へ一律に通知している
- 事前に本人の希望を確認しておらず、対象者へ一律に通知しているが、
- その他 本人が結果を知りたくない場合は目に入らないような工夫をしている



その他

検診機関によって異なる

自治体が乳房構成を通知する際に活用できる説明資料等

第46回検討会を踏まえ、3学会(※1)の会員により構成されるワーキンググループ監修のもと、自治体が乳房構成を通知する際に活用できる説明資料等を作成した。

検討体制

1. 監修

『乳房構成の通知に関する専門ワーキンググループ』

構成員(敬称略)

〈日本乳癌検診学会〉

- ・宮城県立がんセンター乳癌外科 大貫幸二
- ・川崎医科大学総合医療センター外／川崎医科大学総合外科学 中島 一毅
- ・兵庫県立がんセンター乳癌外科 広利 浩一

〈日本乳癌学会〉

- ・東北公済病院／東北大学 石田孝宣
- ・名古屋市立大学大学院医学研究科 乳癌外科学分野 遠山 竜也
- ・静岡がんセンター 乳腺画像診断科／生理検査科 植松 孝悦

〈日本乳がん検診精度管理中央機構〉

- ・国立病院機構渋川医療センター 横江隆夫
- ・聖路加国際病院 放射線科 角田 博子
- ・岐阜医療科学大学 保健科学部 篠原 範充

〈厚生労働科学研究研究班(※2)〉

- ・恩賜財団福井県済生会病院 笠原 善郎

※上記の他、がん経験者及び自治体のがん検診担当者の意見を聴取

2. 検討した資料

- ・住民向けの乳房構成に関する情報提供資料
- ・自治体担当者向けのQ&A
- ・研究班(※2)の作成した「乳房構成判定アトラス」の改定

乳房構成に関する情報提供資料

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

乳がん検診を
もっと安心して受けるために

知ってほしい『乳房構成』

『乳房構成』とは、乳房のタイプのことです

- 乳房は母乳を作る乳腺とそれを包む脂肪からできています。
- 乳房構成とは、乳房のなかの乳腺と脂肪のバランスで分けられる乳房の分類です。脂肪が多い方から順に「脂肪性」、「乳腺散在」、「不均一高濃度」、「極めて高濃度」の4つに分類されます。
- 4つのタイプのうち、「不均一高濃度」と「極めて高濃度」の2つのタイプを「高濃度乳房」と呼びます。
- マンモグラフィで、乳腺は白く、脂肪は黒く写るため、高濃度乳房は乳腺組織の割合が高く、マンモグラフィでは白く見える部分が多くなります。

乳房構成の分類

脂肪性	乳腺散在	不均一高濃度	極めて高濃度
乳腺が少なく脂肪が多いタイプ	乳腺と脂肪が混在しているタイプ	乳腺が多く不均一に分布するタイプ	乳腺が非常に多くほとんどが白く写るタイプ

高濃度乳房

乳がん(模式図)の写り方の違い

脂肪性	極めて高濃度
脂肪性	極めて高濃度

乳がんのしこりもマンモグラフィで白く写ります。そのため、濃度が高いタイプの乳房では、白い乳腺の陰に乳がんが隠れてしまい、マンモグラフィで乳がんを見つけにくくなる傾向があります。

つまり、感度(乳がんである人を正しく陽性と判定できる確率)が低くなる傾向があるといえます。乳房の濃度が高い人ほど、乳がんになる可能性が高いことが報告されています。

※ 高濃度乳房は「病気」ではありません

- 高濃度乳房は体質のひとつで、多くの女性に見られる乳房のタイプです。
- こうした乳房の構成は、年齢、出産・授乳の経験、生活習慣や体質の変化などによって変化します。そのため、同じ女性でも検診を受けた時の乳房構成の判定が変わることも珍しくありません。
- 高濃度乳房と判定されても、それは乳房構成の一つのタイプであり、病気ではないということもよくご理解いただきたいと思います。

高濃度乳房の人の割合(日本人の報告)

40歳代	50歳代	60歳代
約7割	約5割	約4割

※ 参考: 日本乳がん検診精度管理中央機構ホームページ
https://www.aqbc.or.jp/us/d_list/

※ 乳房での超音波検査が実施されているかどうかについては、受診時に、各医療機関のホームページ等でご確認ください。

※ 一定の検診管理がなされた乳房超音波検査を受けた後、医師の検診を受けることとして、日本乳がん検診精度管理中央機構が、施設・医師の能力をホームページで公開しています。

※ 参考: 日本乳がん検診精度管理中央機構ホームページ
https://www.aqbc.or.jp/us/d_list/

※ 上記ホームページ上に公開されている施設・医師が検索できない医療機関においても、自費での超音波検査を実施している場合があります。

裏面では、これらの健康管理に役立つポイントをご紹介します。

お問い合わせ先

もっと詳しく知りたい方はこちら
高濃度乳房 検索

(※1)日本乳癌検診学会・日本乳癌学会・日本乳がん検診精度管理中央機構

(※2)「乳がん検診における乳房の構成(高濃度乳房を含む)の適切な情報提供に資する研究」(研究代表者:笠原善郎、平成29年度)5

「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」改正案

以下のとおり指針を改正することとしてはどうか。

第1・第2 (略)

第3 がん検診

1～4 (略)

5 乳がん検診

(1) (略)

(2) 結果の通知

検診の結果については、精密検査の必要性の有無を附し、受診者に速やかに通知する。またマンモグラフィ検査によって判定される乳房構成について、市町村は以下の要件を満たした上で、受診者に通知すること。

判定に当たっては、日本乳癌検診学会によるマニュアル等(※1)を参考にすること。

<要件>

- ・がん検診の受診勧奨の際に、当該自治体においては乳房構成を通知する旨を、事前に伝えること。
- ・乳房構成の通知に併せて乳房構成について適切な情報提供を行えること。情報提供にあたっては厚生労働省HPで公表している「乳房構成に関する情報提供資材」(※2)を参照すること。
- ・通知を受けた受診者からの問い合わせを受け付けること。対応に当たっては厚生労働省が示す自治体担当者向けのQ&A(※3)を参照すること。

(3)～(6) (略)

6～8 (略)

(※1)厚生労働科学研究(平成30～令和2年度)において作成された「乳房構成判定アトラス」を、今後、『乳房構成の通知に関する専門ワーキンググループ』が監修の上で改訂し、日本乳癌検診学会が公表する予定

(※2)参考資料3「住民向けの乳房構成に関する情報提供資材」を想定

(※3)参考資料4「乳房構成に関する自治体担当者向けのQ&A」を想定